

2016(平成28)年10月12日～14日

国際展示場「東京ビッグサイト」(有明)

- 未来社会の姿としてAI、IoT化とのデジタル化進展により、社会課題の解決や新たな価値創造をもたらすとの可能性を示す「Society 5.0」が提唱され、「新しい経済政策パッケージ」では、「革命的」に生産性を押し上げる大きな可能性を秘めている」と言及された
- 国際シンポジウム「障害者の権利の擁護とさらなる社会参加の促進のために ～ノーマライゼーションのこれまでとこれから」では、障害者の権利擁護等の動きが高まるなか、デンマークから専門の研究者を招き、考察を行った
- スマートフォン等携帯端末に対応したことでホームページへの訪問数は144,636件と1.7倍となり、内スマートフォン等携帯端末からは25,551件と旧サイトの2倍以上の訪問を得た



[第43回 ポスター]

主催 全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会  
 来場者数 112,752人  
 出展社数 527社：海外16か国1地域70社、国内457社  
 ◆東展示場 1～6ホール



熊本地震発生

- ▶ 「ニッポン一億総活躍プラン」閣議決定にて、地域共生社会の実現をめざすことが政策として打ち出される
- ▶ 「障害者差別解消法」施行

国際シンポジウム

## 障害者の権利の擁護とさらなる社会参加の促進のために ～ノーマライゼーションのこれまでとこれから

「障害者差別解消法」、「障害者雇用促進法」改正、さらに2020年日本でのパラリンピック開催決定といった社会状況の中、障害者の権利擁護や社会参加の促進をめぐる変化と最新の動向に関するシンポジウムを開催し、わが国の今後の関連の取り組みを展望を考察した

●デンマーク

ハナ・スティグ・アンダーセン 氏 デンマーク社会福祉・内務省障害者局長

●日本

末光 茂 氏 社会福祉法人旭川荘理事長、川崎医療福祉大学特任教授、医学博士



ハナ・スティグ・アンダーセン氏 末光 茂氏

チューター

近藤純五郎 氏

一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会理事長、弁護士、元厚生労働事務次官



## H.C.R. セミナー

### 福祉施設・在宅サービス役職員向け

◆福祉施設の実践事例発表 ～役立つ活かせる実践研究、工夫とアイデア

社会福祉法人による「地域における公益的な取組」が、改正社会福祉法により法人の責務として位置付けられ、これに関する事例発表も実施した

A会場

- ①コミュニケーションロボットで見えてきた介護の未来  
社会福祉法人横浜市福祉サービス協会特別養護老人ホーム新鶴見ホーム
- ②地域と施設の協働 社会福祉法人六親会
- ③人材確保対策室の取組  
社会福祉法人あいの土山福祉会エーデル土山
- ④人的、物的介護手段の融合による  
“床から抱え上げない”移乗介助  
“してあげる”介護から“良くする”介護へ  
社会福祉法人湘南遊愛会特別養護老人ホームゆうあいの郷
- ⑤オランダ研修旅行から学んだこと  
社会福祉法人堺福祉会特別養護老人ホーム ハートピア堺

司会進行 湯川智美 氏 社会福祉法人六親会常務理事

B会場

- ①「寝たきりにさせない」  
障がい者施設での10年間の取り組み  
社会福祉法人北ひろしま福祉会機能訓練センター
- ②TEACCH プログラムの手法を活用したアプローチ  
社会福祉法人阪神福祉事業団ななくさ育成園
- ③BCPの実践 社会福祉法人若竹会
- ④障がい児への理解を深める  
地域の保育所との交流保育  
社会福祉法人肥後自活団大江学園
- ⑤地域の特性を活かした地域貢献活動  
社会福祉法人信和会

司会進行 久木元司 氏 社会福祉法人常盤会理事長

### 企業関係者向け

◆介護ロボット開発の最新動向と今後の展望

～北欧のユーザー・ドリブン・イノベーションからみる普及実現に向けた取り組み

植村佳代 氏 株式会社日本政策投資銀行産業調査部副調査役